

沖縄伊江島の闘い

“平和の最大の敵は無関心である。戦争の最大の友も無関心である”

沖縄現地調査報告

ふじしろ政夫

本部港から伊江港へのフェリーに乗り（約 20 分）伊江島を訪れました。（4/5）

「ヌチドウタカラの家」「反戦平和資料館」を訪れ謝花悦子さんからお話を聞きました。資料館の学芸員さんからは伊江島の歴史を説明していただきました。日本軍が 1944 年東洋一と言われる飛行場を建設。1945 年 4 月米軍との地上戦。“集団強制死”の事実。その後全島民が 2 年間島の外に出されている間に米軍基地がつくられてしまった結果、家も畑もなくなり苦労の日々。そして更に 1953 年米軍は銃剣とブルドーザーで基地を拡大。67%の土地が米軍基地に。

阿波根昌鴻の指導による住民の反対闘争で 1970 年には米軍基地の 58%が解放され、今米軍基地は島の 35%の面積になっているとのこと。

今日、村会議員は 10 人でそのうち 9 人は基地容認だとのこと。

当時の事実を示す資料がたくさん展示されていました。

謝花さんからは阿波根昌鴻（1901～2002）氏の活動と現在の安倍政治への思いを聴くことができました。「基地問題がここまで来るとは・・・」「強制接收され“非暴力・無抵抗の闘い”でこの 70 年間苦しい闘いをしてきた島民に対して何一つ課題をかたづけることなく責任も取っていない政府とは何なのか」と現状への怒りを静かに語りました。

核の実弾が伊江島にあったことも国民にウソをついて隠していた政府。不発弾で死亡した島民への補償をきっちり取った闘いなど、阿波根氏の“ヌチドウ宝”“命に勝るものはない”の思い、「平和の武器は学習だ」「戦争の原因を知るためには学習が必要」と非暴力・無抵抗の闘いが、今の辺野古の闘いに引き継がれていると指摘しました。



阿波根さんが示した①嘘と奪い尽くす悪魔②物に生きる鬼畜③悪魔でも鬼畜でもない人間の 3 分類を説明し、今の政治は悪魔の道を歩んでいるようだと批判しました。

又、戦争への準備は 30～40 年前から準備される歴史的事実を、伊江島の伊江港・本部港の拡大工事が 28 年前から行われていたこと、そして今年 1 月には米軍艦が伊江港に表れたことで説明しました。まさに“高江・辺野古・伊江島”といった一つの大きな軍事ラインが明らかになってきました。

更に、昨今の「辺野古の座り込みは弁当の手当て付きでやっている」とのウソとデマが全島的に広がっている現実。その嘘を見抜くためにも歴史を学ぶ事・学習することの必要性を語ってくれました。

非暴力・無抵抗で伊江島の基地問題を解決していった阿波根さんの道理ある政治の原点をクリスチャンとしての「善し悪しは天が見ている」の言葉の中に見て取れました。

最後に『五本の指はいつも仲良く助け合って共に働く。指に学びましょう』の阿波根昌鴻さんの言葉を教えてもらいました。